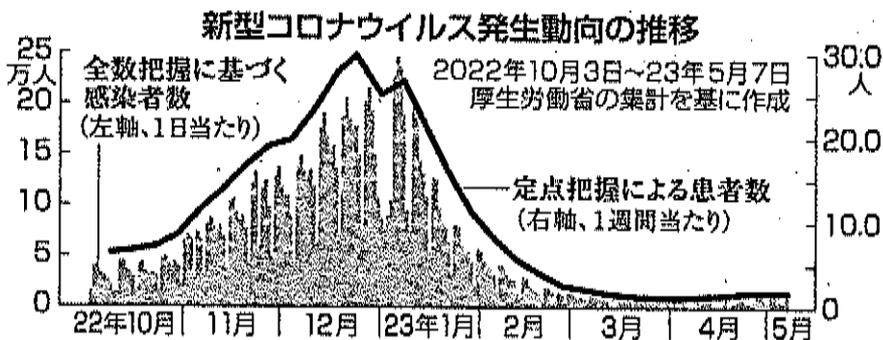


「5類」移行後も微増 コロナ感染者「定点」初公表

厚生労働省は19日、新型コロナウイルスの「5類」に移行した感染症法上の位置付け



ことを受け、「定点把握」に基づく感染者数を初めて公表しました。8～14日に報告された医療機関1カ所当たりの患者数は2・63人(速報値)で、前週の1・46倍でした。同省は「4月以降の緩やかな増加傾向が続いている」としています。

報告があった感染者数は計1万2922人で、医療機関1カ所当たりの都道府県別では、沖縄の6・07人が最も多く、最少は高知の1・27人でした。年代別では、10歳未満や20代で前週からの増加幅が大きくなりました。

厚生労働省は「2類相当」だった新型コロナウイルスについて、全ての患者情報を集める「全数把握」を実施してきましたが、移行に伴い7日に終了。8日からは全国約5000の医療機関から報告を受ける定点把握に変更されました。14日までの1週間に

定点把握に基づく昨年10月～今月7日の参考値も発表。感染拡大「第8波」に見舞われ、1日当たりの感染者が20万人を超える日もあった昨年12月19～25日は29・80人に上りました。移行直前の今月1～7日は1・80人でした。